

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 保健・医療の充実	② 施策番号	4604
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 みんなで支えあう福祉のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 障害福祉の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	障害福祉課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	心身の発達に遅れや障害のある障害者(児)
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	心身の発達を促し、日常生活動作の制限の軽減、維持向上をめざす。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	「障害者総合支援法」に規定されている生活訓練事業であり、地域のニーズに合わせて市の役割として早期療育等を行う。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 機能回復訓練等実施者数(延べ) 計算式	人	地域の利用者のニーズ把握のため。
② 計算式		
③ 計算式		

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
①	機能回復訓練等実施者数(延べ)	人	目標値						
			実績値	789	814	727	—	—	
			達成率						
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)				事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1	肢体不自由者(児)機能回復訓練事業	機能回復訓練等実施者数(延べ)	人	814	727	800	7,858	6,979	7,004	B	イ b	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						7,858	6,979	7,004			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	障害の軽減や機能の改善、維持を図り、リハビリテーション体制等を充実させる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	機能回復訓練等実施者数(延べ)は、平成30年度減少したが、一定の利用ニーズはある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	保護者の要望から開始した事業であり、民間には類似サービスが少ないため、身近な地域でニーズに応じた早期療育等を市としても実施する必要がある。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	障害の重度差、利用者の体調、状態変化がそれぞれ個人によって違うために成果指標の変化を見ることが困難なところがあるが、適正と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	地域で利用者のニーズに応じた細かなサービスを継続実施するために、特に重点化する。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	成果指標である述べ実施者数は一定確保されており、施策は適切に進められている。 利用者の増加に伴う今後の展開については、継続した支援に向けた取組を検討する必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	継続して心身の発達を促すために理学療法士や作業療法士による機能訓練や保護者への支援を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	実施者数の増加に対応するため、人員の確保に努める。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	継続実施できる体制づくりを行う。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	機能訓練を通じた障害者支援が適切に進められている。 利用者の増加に伴う今後の展開については、関係機関との連携等を含めた継続支援への取組や展開を検討されたい。	